

第6回流山市補助金等審議会会議録

- 1 開催日 平成24年12月11日 (火)
午後2時から
- 2 場所 流山市役所第2庁舎第302会議室
- 3 出席委員 伊藤会長、山口副会長、柴委員、西村委員、前田委員、松本委員、
廣田委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 安井財政部次長兼財政調整課長、馬場 賢主査、古川臨時職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 議題
(1) 新規及び増額補助金等の評価並びに答申素案について
- 8 配布資料
(1) 小中学校教育研究会補助金についての適正化実行プラン差し替え及び
千葉県と市の配分等についての説明書き
(2) 平成25年度新規補助金及び増額等補助金に係る評価訂正箇所
(3) 平成25年度答申素案
(4) 補助金件数、総額の推移、開始期間別件数、割合
(5) 補助金審査の判断基準
(6) 平成25年度予算要求補助金等調査票・補助金等適正化プラン（開始年
度、経過年数含む）
(7) 平成25年度補助金等予算要求状況一覧（要求額0の分）

(伊藤会長)

それでは、第6回補助金等審議会を始めます。本日の会議は、委員出席7名、欠席0名です。7名全員出席ですので、会議は成立していることをご報告します。

なお、あらかじめご報告申し上げますが、流山市では「審議会等の会議の公開に関する指針」を策定し、審議会等の会議は、原則公開とする旨規定しておりますことから、本審議会も公開といたしますので、あらかじめご了解をいただきたいと思います。

本日の議題は、新規及び増額補助金等の評価並びに答申素案についてです。始まる前に事務局の方から、ご説明がありますのでお願いします。

(事務局)

配布資料の確認(小中学校教育研究会の適正化実行プランの差し替え及び千葉県と市の配分等についての説明)

(伊藤会長)

では、はじめに山口副会長より、平成25年度新規補助金及び増額等補助金に係る評価訂正箇所のご説明がありますので、お願いいたします。

(山口副会長)

訂正箇所説明 アンダーライン部分について

(伊藤会長)

では、いかがでしょうか。

(前田委員)

18番の小中学校教育研究会補助金の説明が、先ほど課長からありました。よろしいんですが、補助金全体の中で、例えば職員互助会とか、いろんな団体会費の部分と、補助の部分とある補助金が沢山あるんです。これまでも、議論になったんですが、自分たちが納めているから良いじゃないかという説明なんです。だけど、お金に色はついていませんから。これは、全体として、市から補助をしているんですから。今回色々整理をされているようですが、自分たちが出しているから、良いじゃないかということではないわけです。そういう点で、慎重に扱っていただきたい。

(伊藤会長)

はい。貴重なご意見ありがとうございました。ではよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

では、新規補助金及び増額等補助金に係る評価について、これで終わります。次の議案の答申書の素案について説明させていただきます。

答申書素案説明

どなたかこれは、おかしいとか、誤りとかいう指摘がありましたら、遠慮なくお願いいたします。

(前田委員)

「財政危機、ギリシャ化懸念の日本国財政危機」となっていますが、国際経済などは少し関心を持ってながめていると、EUがいかにお金を出し合ってギリシャを助けようとしているか、それと連動しているのが、IMFであろうというふうに私はそう考えていますので、それを少し入れてはどうかと思います。

(伊藤会長)

何か例えばこんな感じで、というアイデアがあれば、お願いします。

(前田委員)

毎日の国際経済のニュースでは、いかにEUがギリシャを助けようとしているのが最大の注目点です。もちろんレートに表れている中では、IMFの議長もあの中に入っておられますけれども。これはIMFの分析で、今現実で動いているのは、EU内での、そういう助け合い、日本的に言うと助け合い運動が中心ではないかと私は思うんです。それともう一つは、千葉市を例に挙げていますが、他市を取り上げる場合のあり方というのがありますね。流山市の場合は、あらゆる行政の批評について、東葛の松戸、柏、野田などとの連携を、非常に密にしていますから。そういう点では、どうなのかなと。私達は長年、市の補助金審議会をやっていますから、流山市の財政はどうなっているかと、この場合は、批評は広報にでていきますから、やはり財政調整課と意見交換してやったら良いかなと思います。

(伊藤会長)

実はこのあたりは、事務局さんから資料のデータを、頂いています。

(前田委員)

皆様のご意見もあると思いますから、聞いてください。それと、2の「地方自治体と補助金」の中で羅列して教育、保育などありますが、後になって農政の問題がでてくるわけです。ですから、具体的に挙げる場合に現実に今、126件の補助金で、どういう分野に、どれだけ交付されてきているかということも、念頭において書かれたほうが、よろしいかなと思います。

単に、農政を入れるということだけではなくてです。「おわり」の部分についてですが、NPOやボランティアをものすごく強調しているんです。間違いではないと思います。しかし、まちづくり協議会の、総括なんかを見ても、NPOなんか、全然出てこないんです。現実には、NPOは、流山の中では、突出しているわけでもないし、ちょっと伸び悩んでいるような感じを持つんです。これは、事務局に意見を聞かないといけませんけど。地域の活動の中で、自治会の運動をどうするかとか、色々そういうのが、出てきますから。ちょっとNPOと言いつぎるのは、いかがなものかという感じはしました。

(伊藤会長)

今ご指摘がありました、2ページの一番最後のところの、千葉市のところを削るといのはどうでしょうか。私の意見では流山市の答申書ですし、ここを削って、3ページの流山市のところは、入れても良いのではないかなと思います。

(柴委員)

千葉市をはっきり出さずに「地方自治体によっては、借金の返済の重さを表す云々」で「一方、流山市は」と続けるのはどうですか。

(伊藤会長)

そうですね。千葉市を出さないで、そのような言い方もいいですね。

(西村委員)

千葉市みたいところは、多いですか。

(伊藤会長)

多いですね。全国の自治体の中で6割ぐらいは千葉市の様な状況ですかね。

(西村委員)

「多い中で、云々」としてみても良いのでは、ないですか。

(伊藤会長)

はい、では千葉市を入れずに、文章はあとで整理させていただきます。

(山口副会長)

この1番の「財政危機」の「(1) ギリシャ化懸念の日本国財政危機」とありますが「ギリシャ化危機」というのを、あえて引用しなくても良いのかなと思いました。日本の財政危機というのは、既にもう危機ですよ。なので「ギリシャ化」を入れず「日本国の財政危機」をさらっという言い方もあるのでは、という感じがしました。それと2番の「(2) 三位一体改革で地方自治体財政難深刻化と」ありますが、必ずしもそうとは言いきれないのでこの記述はどうかと。それと債務負担高は取り方がまちまちなんですよ。例えば上には1千兆とあります。下では600兆と言っているんですけど、債務負担残高については、取り方が単純な場合には数字が異なります。普通国債とか財投債とか色んなことを入れると1千兆超すんです。

(事務局)

これは財務省のホームページをご覧になると分かります。これは、かなり前の数字だと思います。

(山口副会長)

一千兆を超えていますね。その超え方は、財投債とか全部含むと一千を超えるんですが、そのあたりの数字が、誤解を招く恐れがあります。日本の財政赤字は一千兆を超えるのは、間違いない話なんですよ。

(松本委員)

1番のところは、2012年度末には、「残高が一千兆を超えた」ではなく、「超える見込みです。」が正しい表現だと思います。

(山口副会長)

そうですね。

(松本委員)

それと3ページの「流山市の補助金の現状」ですが、ここからが、我々の活動の主体だから、もう少し、詳しく文章が入らないといけないと思うんです。この補助金件数も126件であっているのかわからないですし。133件という表もありましたので。あとは、どの表がどれにあたるのか、きちんと入っていた方が良いんじゃないかなと思います。4ページのところに、我々の審議会の活動をもっと詳しく書いてもらいたいな。と思いました。また、今回の審査対象のところですが、全体で何件のうち23件になりました、そしてそれにあたっての評価の仕方としては、去年は3段階でしたが、今年はお記のとおり、4段階になりました。2回も議論していますから、いろいろ審議した上、4段階に変えたという言葉が必要だと思います。

(西村委員)

全体の流れは、言わなくて良いけれど、新規、増額等の補助金について、当初諮問があったと、何か言わないと、何について審議されているのかというのが読んでいて、ぴんとこないです。また、財政調整課が市としての問題を整理した上で、どういう問題があるから市長から諮問してくれると、何か説き伏せてから、関係性を入れられたほうが、良いのではないかと思います。

(伊藤会長)

では、少し整理をしますと、3 ページの部分 4 ページにもう少し詳しく表や文章を入れて、膨らませるということで、よろしいでしょうか。

2 ページについてですが、「ギリシャ化云々と三位一体」というのは削らせて頂きまして、(1)、(2)と分けずに、さらりと日本の財政危機についてまとめてみます。

(廣田委員)

1 番の財政危機についてなんですが、何が言いたいかわからないんですが。

(伊藤会長)

日本全国、かなり地方財政が厳しい状態におかれている。という状況の中で、最後の結論は、貴重なお金を使っているのだから、マンネリ化しないでほしい、ということです。

最後のまとめでこの話を言ってしまうと、前回と同じ内容になってしまうので、1 番に持ってきました。

(廣田委員)

では危機的状態である。と言いたいという意味ですか。

(伊藤会長)

はい。そうです。

(廣田委員)

では流山市は危機的状況ではないですよ。と言えるでは、ないですか。

(伊藤会長)

いえ、それは違います。じゃあ流山市は、安全だから、大丈夫とは言っていないということにはなりませんから。

(廣田委員)

そういう意味が、伝わってこないんですが。

(伊藤会長)

では、この財政危機のところは、全て取っ払って、3 ページの流山市の財政の健全性は保たれているが、財政危機があるので油断はできない。ということ、入れさせて頂くということで、よろしいでしょうか。

(事務局)

資料追加の説明

補助金件数 1 3 3 件と 1 2 6 件の違いについて、「補助金件数」、「総額の推移」、

「開始期間別件数・割合、補助金審査の判断基準」、「平成25年度予算要求補助金等調査票・補助金等適正化プラン（開始年度、経過年数含む）」、「平成25年度補助金等予算要求状況一覧（要求額0の分）」の資料についての説明

（伊藤会長）

2ページの（2）の中の国、地方自治体の借金は、総額600兆円というのはやめますか。数字はいかがなものかなとのご意見がありましたので。

（事務局）

入れるのであれば、財務省のホームページをみればわかります。今、手元にきちんとした資料がございませんが、私の記憶上では、1000兆円を超えていると思いますので、後日、資料をお渡しします。

（山口副会長）

前文のお化粧の部分は、そんなに分厚くしなくてもよいかもしれません。

（伊藤会長）

では、2ページのあたりを短くしてみます。

（柴委員）

目次の1番、「財政危機」のところを「はじめに」にしなくてもいいですか。

（伊藤会長）

はい。私もそう思ったんですが、「はじめに」を入れない書き方もありますので。

あえて「はじめに」とせず「1番、財政危機」とした理由は、「財政危機」みたいなことを書くのに、これをいわば、「はじめに」と言うと、これから書く言いたいポイントである、まとめのところが言えなくなってしまう。それはまとめのところで言いたいのであえて「はじめに」というのはやめて、「1番、財政危機」というふうにしました。もちろん、（1）と（2）はやめます。

（松本委員）

やはりポイントは、「流山市の補助金の現状」ですから。何度も議論しましたから。前回の答申書には、ヒヤリングした日にちまで入っていました。

（伊藤委員）

それでは、柴委員からも、ご意見がでましたが、「財政危機」のところは短くしまして、3番の「流山市補助金の現状」をふくらませてみたいと思います。

（山口副会長）

そうしますと、これは1番と2番の「財政危機」のところを、まとめられるんですね。

（伊藤委員）

いえ、もう一度説明します。

1番、「財政危機」のところは、このままで良いと思います。ただし（1）ギリシヤ化、（2）三位一体のところはやめて、まとめて、さらりと書くようにします。

（山口副会長）

2番の「地方自治体」のところを活かすわけですね。

(伊藤会長)

3番の「流山市の補助金の現状」は文章を、もう少しふくらませます。ということでご了解して頂いてよろしいですか。1番のNPOのところですが、これはいかがですか。もしNPOの分がなくてもよろしいのであれば、なくしますが。

(柴委員)

そうですね。2番からはじめてもよろしいですね。

(山口副会長)

「おわりに」の2番の最後から2行目の、「世界に開かれた自治体」という言葉が合わないような感じがします。

(伊藤会長)

そうですね。はい、ではいかがでしょうか。「必要な財政支出、有効な補助金による市の活性化は大いに期待できる」で切って「国際化時代から」をなくしてというのでもよろしいでしょうか。

では、この3行の部分は、さらりと家でまとめておきます。

もう一度確認いたします。6ページの1番のNPOについては、なくします。

(西村委員)

最後のページの「これではまともに審査の評価もできない。苦勞して作成される「答申書」の『苦勞』」という言葉は『真劍』にという言い回しにした方が良いと思いますが。

(松本委員)

それと、一番最後の「甘い姿勢は続けてほしくない」という言葉を「甘い姿勢は見直さなければならぬ」に、言い方を変えたほうが、良いのではないのでしょうか。

(伊藤委員)

そうですね。

(前田委員)

最後の7ページの最初の『苦勞』して作成される云々とありますが、『苦勞』して作成するというのは、補助金審議会ではあたりまえの事なんだから、強いてこの言葉を、強調する必要はないでしょう。むしろ市長に答申した答申書の役割を、認識してもらいたいという事だと思います。

(伊藤会長)

では、整理させていただきますと、冒頭の2行は削ります。

(柴委員)

6ページの下から2行目の「したがって」はいらないと思います。

(松本委員)

最後の部分の「ケースも見られる」ではなくて「見受けられる」がいいんじゃないですか。

(伊藤会長)

では、今日中に訂正して、数日中にまとめたものを、各委員さんに添付メールをお

送りいたします。

(事務局)

次回の日程の連絡

(伊藤会長)

では、本日の第6回補助金等審議会を終わります。

ありがとうございました。

午後4時解散